私の保育園の生い立ち

浜田玲子

西に淀橋の浄水場の満々たる水を眺め、その提に立ち並ぶ樹木の間からは、遙かに富士を仰ぐことが出来る。新宿駅より五分の雑踏の中に、こんな所があるかと思われるほど、静かな環境に恵まれているところ、ここは、一、四〇〇坪あまりの淀橋第二小学校の校庭である。その広さの中には、僅か一〇〇坪の校舎に続いて古ぼけた三〇坪ほどの廃校舎に近い建物がぽつんと建っていた。まさかこの古い校舎が、数多くの望みと夢を懐いた私を待っていた教育の場であるとは、うかつにも想像だにしなかった。

開園当時のころ

古い校舎――それは、終戦直後に長野県から購入したというバラックであるが、その一教室に子どもたちを迎えることになり、いよいよ入園式をおこなう運びとなった。昭和二十九年四月十日。暖かなよいお天気の日で校庭の桜は満開であった。もう隣接の幼稚園では、とうに園児募集も終え入園式もすませた時期であるのに狭い教室には約七十名の園児が、小さな胸を張って、緊張した顔でじっと行儀よく並んでいる。小学校から借用したオルガンに合わせて、ござの上に座った新入園児は、元気いっぱいの声で「おててつないで……」を歌って入園式は終った。

何もないところからの出発。全く何もないのである。この状態をいかにして理想的な教育環境にしたらよいか、頭の中では、あれも、これもと思いつき、こうしたいという考えを持ちながら、どこから手をつけてよいのかわからない。そこで先ず与えられたこの環境をよりよく生かしていくことが園児たちにとっても必要なことであるし、私どもにとっての大きな課題であることに気付いた。室内・室外での遊具、箱つみ木、ブランコ、砂場、三輪車、絵本、人形などを用意すると遊具を使って遊ぶようになって来た。

子どもたちのいる間の室内では、活気に満ちて気づかなかったことが、さよならをして　ぽつんと室内にとり残されると、いろいろと目についてはなれない。床板の隙は小さな足が落ちるかもしれないし、いかにも殺風景な古い荒削りの柱やでこぼこしたベニヤの壁は、およそ子どもの楽園とはほど遠くガランとして明日来る子どもたちを待っているとはみえないのである。私達で出来ることは塗料でぬりかえ、この殺風景な室を、少しでも落ちついた楽しい場に変えることであると気づき、早速この仕事に取りかかった。室の広さに比して三人の仕事の量は多すぎてたいへんな仕事であったが、子どもたちの嬉しそうな顔がちらついて、夢中でやってしまった。土曜日の午后のことであった。月曜には幾分明かるくなった保育室に、「わあ、きれいだ」と歓声をあげる子どもたちを迎えられて、私どもの心は明かるかった。

三十坪のこの独立した古校舎には、十五坪ずつ二教室あるが、保育園ではそのうちの一教室のみが専用の室になっていて、隣の一教室はピアノがある学校の音楽室である。たった一教室に、四才児、五才児が混合して七十名、ひしめき合っている毎日が展開され、この合同保育を、限られた生活の場で進めていくには私どもには技術がなく、まず健康に、安全にということを保育の目標におき、出来るだけ広い運動場へ出て園外の保育を充実させることに努めたので

あった。

保育施設内容の充実へ

健康保育を充実してという目標のもとに計画を進めていくうちに、いつの間にか暑い夏を迎えていた。むし暑い夏を楽しく過させようと、お母さんや地元の有志の方が、保育園専用のプールを作ろうと立ち上りはじめ、一と月と経たないうちに、六坪ほどの可愛らしいプールが開設された。開園して半年にもならない二十九年八月のことである。

翌年の三十年六月には、地元の有志の方が中心となって立派なピアノを購入することになり、ピアノを囲んでお母さんや地元のおばさんやおじさんたちと楽しくピアノ披露子ども会を催すことが出来た。その後、電蓄、弁当保温器なども備えられて室内も充実していった。

校庭は全校児童三百余名の割には広く、一〇〇〇坪近くあるのでその一隅の約一二〇坪ほどに園児の庭を作ることになり、ジャングル、ブランコ3、すべり台、遊動円木、すな坪、鉄棒3、太鼓橋、藤棚、その下の円型のテーブルも設けられた。その庭の一部には学校で飼育している鳥小屋や兎小屋もあって、園児たちの楽しい戸外遊びも潤いをもって展開されるようになってきた。

入園当初からみれば、保育室は狭くとも、園庭は整備されてきたのであるが、まだまだ、保育をやりよくするにはじゅうぶんな環境であるとは言えない。この不じゅうぶんな環境の中でも子どもたちが満足して遊べるようにじゅうぶんに活動出来るようにその使い方を工夫していった。一室の都合上年少と年長児がクラス意識を全く持っていず、仲よく協力して遊ぶ場面もみられたし、またお天気のよい日は、藤棚の下のテーブルを囲んで、青空での保育をしたり、また時には、お互いに活動をみることによって励まされたり、教えられたりすることも多かった。

新しい園舎の落成

しかし、何としても十五坪の一教室の狭さでは、七十名の園児の望ましい教育は不可能であることを痛感し、どうにかしたいと思案していた矢先、この古校舎を増改築して、新校舎が出来る報を耳にした。一時は、その一部を借用出来る予定であったのも不可能となって、やっと住みなれたこの古い校舎から立ちのくように言われ、全くの青空の下、校庭へ、保育の場が移動せざるをえない状態になってしまった。もしかしたらこの保育園は廃園になるかもしれないという不安。いやこの際、独立した立派な園舎を建てようという希望。不安と希望に励まされながらの毎日を私たちは子どもたちと何もかも忘れて飛んで遊んでいた。私どもがこうしているうち、母の会の会長をはじめ、役員のかたや園長（小学校長）が中心となって、独立した園舎建築の運動がはじまった。区長の御尽力もあって、古い材木を安く入手出来、約四十五坪ではあるが、独立した園舎を、園庭の近くに建てることになり、着々工事が進められていった。古校舎は、十月の半ばに取りこわされ、十二月に新園舎が出来上るまでの一ヵ月半の間、お天気のよい日は校庭で、秋の日射しを浴びながら、気候のよい季節をじゅうぶんに生かして、御苑や外苑に、木の葉やまつぼっくりを拾ったりして、園外保育で充実させた。困ったのは雨の日だったが、校長室と衛生室を借りて、狭い場所にあっても子どもたちとともに「あたらしいうち」が出来るまでと、一日も休園することなく頑張り通したのであった。

一方、会長をはじめお母さんたちは地元の人たちに呼びかけて廃品の回収をはじめ、その収益は相当なものになった。この活動は園舎が出来上ってもしばらくは続け、何もしない私たちは、このお母さんたちの力に頭が下がるのみであった。お母さんたちの努力

と、地元のかたがたの協力のかいあって、十二月十日には、古材で建てたとは思えないほど、明るい立派な園舎の落成式を迎えることが出来た。その時のよろこびは筆舌につくしがたい。古材を安く買い受けて建てたため、出来上った床は黒く汚れているようなので、落成日の前日、お母さんたちは、はだし跣で床を洗い、汚れをおとして塗料をぬり、ワックスで仕上げて真新しいピカピカ光る床にして下さった。その日は冷たい風が肌を突きさすように寒い日であった。落成式の飾りつけにはじめて園舎に入った子どもたちは嬉しくて、床の上をころがって歓んだ。あれほどじっと我慢して、不自由な中で頑張った子どもたち、そのよろこびは、私たちも同じである。新園舎落成式には区長をはじめ教育委員のかた、十園の園長、地元の有志の人たち多数の列席をいただき盛大におこなわれた。

園舎が出来て間もなく、お母さんの中から選んだ歌詞に、山田和男氏が作曲した園歌の発表会がおこなわれ、かねてからののぞみであった、〝子どもと一しょにお母さんも楽しく歌える歌〟が誕生したのである。

本年の四月には巾一間で十間にわたる広さのテラスが完成し、保育室から一望のもとに園庭が眺められるようになった。テラスから園庭へ出る所には花壇が出来て、アイリスやチューリップの球根が温かな春を待って眠っている。

年長組と年少組に別けられた明かるい保育室には、子どもたちが自由に遊びに没頭出来るように、あるゆるものが設備されるようになって以前の古教室を借りていた頃から考えてみると、落ちついた環境での子どもの行動や遊びが変ってきているように思う。子どもたちの心も落ちついた環境の下では穏やかになり、豊かな心で友だちと交われるようになっているし、与えられた遊具を使っての遊びも一つのことに集中出来るようになってきている。

まだ開園して三年九ヵ月、官公立や私立の幼稚園などに比較しますと、理想的な環境であるとは申せませんが、何もないところからはじまった故か園の内外のもの一つ一つに限りない愛着を感じるようになってしまった。

運営について

この区では他の区と異って、区立の幼稚園が少なく、保育園は小学校に併設されて十一園あり、これは区長の考えによる社会教育の一部として、その運営も他の幼稚園や保育園と異って、特殊性をもっている。各園とも小学校長が園長（M保育園のみは区議会議員）で、副園長は校務主任である。その他、当園では学校職員三名が職員となっているが、専任の保姆三名が園児七十名の保育に当っている。以上の職員の他、小学校P・T・A会副会長、母の会々長以下役員十名が運営委員会を組織し、保育園の運営を進めているわけである。

費用は、毎月区より一、三〇〇円の委託金があるのみで、園児より毎月（園費三五〇円、教材費五〇円、母の会費一〇〇円）計五〇〇円だけしか徴集しない。その他保育園を育てていこうという有志のかたがたが学校の地元にあって、毎年度一〇〇名以上の人が有志会費を毎月一〇〇円ずつ納めてくださるのは心強い限りである。

年々一、〇〇〇名の幼児の学齢前の教育に実績をあげている新宿区保育園の共通の問題は沢山あって、限られた紙上に述べきれませんが、今後何かの機会に、また皆様とともに考えてまいりたいと思います。

（新宿区淀橋第二保育園）

＊　＊　＊　＊